

子ども用



伝道地便り

2019年 第3期 南太平洋支部

第1話 「バナナが食べたい」

ニューカレドニア

第2話 「神様からの特別な贈り物」

ニューカレドニア

第3話 「ジャクソンの小旅行」

オーストラリア

第4話 「教会をつくった子ども」

ソロモン諸島

第5話 「教会にお客さんとして招く」

パプアニューギニア

第6話 「ロヒがベッドから起きるように」

パプアニューギニア

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. バナナが食べたい

ニューカレドニア



アンドレア・アルバート 11歳

南太平洋にあるニューカレドニアの首都、ヌメアの学校に通う 11 歳のアルバートは、お母さんが迎えに来た時、お腹を空かせていました。

今日はお弁当を半分しか食べなかったのです。なぜなら、あとの半分はきれいなほうれん草だったからです。

「お母さん、ぼくバナナがすごく食べたい。あの小さな店に行ってバナナ買える？」

お母さんもパセリと葉タマネギを買うためにその店に行くところでした。キャッサバとココナッツミルクで出来たトゥルク、というバヌアツの伝統料理を作るためです。でも、パセリと葉タマネギを買うだけのお金、500 フランしか持っていませんでした。

お店に向かう車中、アルバートの頭の中はバナナでいっぱいでした。

お母さんはそんなアルバートに向かって、「あなたは本当にバナナを食べたいのだからそのことに

ついてお祈りしなくちゃね」といいました。

アルバートは声を出して祈りました、「イエスさま、どうぞぼくにバナナを下さい。アーメン」

お母さんはそのお祈りを聞いて嬉しく思いました。

「それでいいわ。イエス様はあなたのお祈りに答えてくださるでしょう」

野外市場に着いた時、お母さんは買い物の間、車で待っているようにとアルバートに言いました。アルバートは言われたとおりにして待っていましたが、車の中は恐ろしく熱くなってきたので外に出て待つことにしました。その時、彼の目にまず飛び込んできたのはバナナを売っている男の人でした。

すると、誰かがアルバートのところへやってきたのです。その人は白い洋服を着、白いショールを頭につけた白人で、手にはたくさんの黄色いバナナを持っていました。

「アルバート」とその人は優しく言いました。

「君にこのバナナをあげよう」

アルバートは驚き、どうしてこの人は自分の名前を知っているのだろうと不思議に思いましたがそのバナナを受け取り、「ありがとう」と声に出して言いました。

「さよなら、アルバート」とその人が言ったので、

「さよなら、ありがとう」とアルバートも答えました。

アルバートが車に戻って早速食べてみると、それはおいしくて、あまくて、やわらかいバナナでした。

戻ってきたお母さんは息子がバナナを食べているのを見て驚き、心配して、だれにもらったのかとだずねました。

「白い服を着た人からだよ」とアルバートは答えました。

お母さんはその人に会ってお礼を言いたいと思いましたが、その人を探しても見つけることは出来ませんでした。

イエス様がアルバートの祈りをきいて下さったのだと気付いたお母さんの目に涙があふれました。彼女は、神様にお礼を言ったのかをアルバートにたずねました。アルバートは食べかけのバナナを手に持ったまま、「イエスさま、バナナをありがとうございます、アーメン」と感謝の祈りをささげました。

アルバートは今も、あの白い服の人は天使だったと信じています。

「ぼくがイエスさまにお祈りしたので、イエス様は天使を送ってぼくにバナナを下さったんだ。バナナはとてもおいしかったよ！」と彼は言いました。

三年前の 13 回献金の一部は、ニューカレドニアのマレ島で子ども安息日学校の教室を建てるために用いられました。あなたの 13 回献金を感謝いたします。

〈更に 2 つの答えられた祈り〉

アルバートは、神様がたくさんの祈りをきいてくださったと言います。

アルバートは魚を釣って売ること、家計を助けています。ある日、アルバートが釣りをしているところに通りかかったお母さんが海に大きな魚がいるのを見つけました。

「大きな魚ね！」とお母さんが言いました。

アルバートは「あの魚をください」と祈り、釣り糸を投げるとあっという間にそれを釣ることが出来ました。

別の日、学校に行く前にアルバートはお母さんにスクービードゥーが欲しいと言いました。スクービードゥーとは、カラフルなビニール紐を編んだもので、キーホルダーなどにします。家の掃除をする家政婦として働くお母さんは、仕事に行くためのバス代しか持っていませんでした。

アルバートは祈りました。

その日、お母さんが掃除していると、

「ここにたくさんのスクービードゥーがありますが、息子さんにいかがですか？」と家の人が言いました。お母さんはびっくりしてその人を見つめました。

「すごいわ、息子の今朝の祈りを神様が聞いてくださったのね」

学校から戻ったアルバートは家にスクービードゥーが入ったかごを見つけてとても喜びました。

〈お話のポイント〉

- ・ニューカレドニアのヌメアを地図で探してみましよう。

- ・お母さんは、イエス様がアルバートのことを特別大切に思っていてくださると信じています。彼女は、アルバートが心臓に穴の空いた状態で生まれてきたことを最近知りました。医者たちはアルバートが一生、発作を患うだろうと述べています。
- ・神様はアルバートの家族の祈りにこれまでたくさん応えてきて下さいました。

お母さんのアンドレア・アニーははじめ神様を信じていませんでした。しかし、お父さんの長年の祈りにより彼女は 2015 年にバプテスマをうけました。

次のリンクでアルバートのビデオを見てみましょう。bit.ly/Albert-Andrea

次のリンクでこの話の写真をみつけてみましょう。bit.ly/fb-mq

2. 神様からの特別な贈り物

ニューカレドニア



フィロミン・ジュリアス 13歳

ここはニューカレドニアのモンドールです。お母さんが13歳のフィロミン・ジュリアスを朝4時半に起こしました。

「ジュリアス、学校に行くのよ。準備しなさい！」
ジュリアスは起き上がると、家で飼っている3匹の犬たちと遊ぶために外へ出て行きました。

それを見てお母さんが呼びました。「学校に行かなければならないこと、忘れたの？」

ジュリアスは、ちゃんと聞いていなくて悪かったと思いながら、体を洗うお湯を沸かすため、水を外の火にかけました。体をきれいにして学校の制服に着替えます。お母さんはジュリアスに、メガネをかけて補聴器をつけ、学校のカバンを持つように言いました。

お母さんに朝食のことを言われて、ジュリアスは小麦のおかゆをマグに入れ、8歳の弟と共に車に乗り込みました。

お母さんが学校までの混雑した道のりを運転す

る間、彼は朝ごはんを食べました。それから学校のカバンから歯ブラシと水のボトルを出し、歯磨きをしました。口をゆすいで水を吐き出したい時は、車を止めるようお母さんに手で合図を送りました。

お母さんと二人の息子たちは、7時のクラスに間に合うように学校に到着しました。二人を学校に預けて帰る時、お母さんは心の中で、二人の息子たち、特にジュリアスのために祈りました。学校の子たちはジュリアスに対して意地悪でした。それで彼はみんなには近づかず、一緒に遊んでくれる人とだけいました。でも大抵、彼はひとりぼっちでした。

ジュリアスは神様からの特別な贈り物です。彼が生まれた時、彼の心臓は動いていませんでした。医師たちの懸命な努力の末、心臓は動き始めましたが、彼は2週間半の間、昏睡状態にありました。医師たちは、彼の脳はやられていて、彼は普通の子には育たないと言いました。

しかし現在のジュリアスは、きわめて普通です。彼はただ、たえず思い出させるための声がけを必要とするだけです。毎朝、お母さんは、彼に起きて着替えるよう、声をかけなくてはなりません。毎朝、犬たちと遊ぶのをやめて、着替えるよう言わなくてはなりません。また、メガネ、補聴器、学校カバン、そして朝食のことを思い出させます。

ジュリアスは自分本位でもありました。朝食を用意するとき、弟を手伝ってあげようと思うことはありませんでした。お母さんは、彼に寛大で役に立つ人になってほしかったので、学校が終わってから彼と話しました。

「もしあなたが天国に行きたいのなら、イエスさまの様な心を持つ必要がありますよ」とお母さんは言いました。「イエス様は人のこともお考えに

なるの。もしあなたが自分のためにおかゆを作るなら、あなたの弟の分を最初に作ってあげるようにする必要があるわ」

ジュリアスは何も言いませんでした。

お母さんはこの件について再び触れることはありませんでしたが、そのかわり彼女は朝夕ごとに息子に人を思いやる心をお与えくださいと神様に祈り続けました。

数週間過ぎたある朝、お母さんはジュリアスが弟に呼びかけるのを聞いて驚きました。

彼は言ったのです。「体を洗いにいって。君の分のお湯を沸かしておいたよ」

お母さんがジュリアスに、朝食を準備するよう言った時、ジュリアスは弟のマグを洗って、そこにおかゆを入れ、それから自分のを入れたのです。

お母さんは喜びに溢れました。

少しずつ少しずつ、ジュリアスは弟や他の人々の役に立てる人になっていきました。最近、彼は母に将来牧師になりたいと言いました。お母さんは神様が彼を助けて下さると信じています。

お母さんは言います。「どのようにしてかわかりませんが、神様は息子が人を思いやることができるようにして下さいました。だからジュリアスが神様のために働く人になれるように、という祈りにもこたえて下さるでしょう。神様は不思議な方法で働いて下さいます」

〈お話のポイント〉

- ・地図でニューカレドニアを見つけましょう。モンドールは首都ヌメアの少し北に位置しています。
- ・モンドールはフランス語で“金の丘”という意味です。
- ・ジュリアスの最初の説教は何になるか子どもたちに聞いてみましょう。この話が彼の最初の説教だと提案しましょう。これは、神様が彼にしてくださったことについての個人的証です。
- ・神様が自分にしてくださったことを他の人に伝えることは、教会でお説教を担当することと同じであるということを子どもたちに話しましょう。
- ・ジュリアスのお母さんの名前はフィロミン・バ

ーバラです。

次のリンクでジュリアスのビデオを見てみましょう。bit.ly/Julius-Philomin

次のリンクでこのお話の写真をみてくださいみましょう。bit.ly/fb-mq

宣教メモ

- これらの島々で働くこととなった最初のセブンスデー・アドベンチスト宣教師は、G.F.ジョーンズさん夫妻でした。彼らは 1925 年 10 月 23 日にシドニーをたち、ニューカレドニアのヌメアまで海を渡っていきました。これらの島々は当時、南太平洋地域で伝道が最も難しかった場所の一つでした。

3. ジャクソンの小旅行

オーストラリア



カリーヌ・カルドソ・デ・オリベイラ 7歳

13歳のステシー・ジャクソンは、両親と三人の弟たちとともに“家族との夜”をもつためにリビングに集まりました。

実際には夜ではなく、まだ夕方の4時で、子どもたちは学校から戻ったばかりでした。一家は毎日20分間話し合うために集まることを常としていました。

この日、お母さんはカンボジアへの家族旅行について話し合いたいと思っていました。ジャクソンはこの旅を楽しみにしていました。歴史ある仏教の寺を見たり、新鮮なパイナップルやパパイアを食べたり……。でもお母さんはそのことよりも、別のことを話したいと思っていました。「今日、教会からきた女性と話したの。休みを利用してカンボジアで学校の教室を建ててはどうかと提案されたの」

お母さんは、その高校1年生の生徒たちが学校の教室を必要としていることを説明し、他のオーストラリア人のふた家族と一緒に、その建設に携わろうと言いました。参加すれば3週間の家族休暇のうち、1週間がこのプロジェクトに費やされることになります。

ジャクソンは「なんだかよくわからないけどやってみよう」と思い、「ぼくは何をするの?」とたずねました。

お母さんは家族全員がそれぞれ仕事を担当するのだと言いました。弟たちは釘打ちと壁塗りをし、ジャクソンとお父さんは、壁になる板をのこぎりで切るのです。

また、このプロジェクトに参加するためにジャクソンと3人の弟たちがそれぞれ米ドルにして740ドルずつ稼がなくてはならないということでした。ジャクソンたちは仕事にとりかかりました。日曜日には台所にこもってカッターチーズのパテ、キッシュ、マフィン、菜食ソーセージ入りパイを作るということを何週間か続けました。フェイスブックで宣伝をし、教会の人たちが買ってくれました。

まもなくジャクソンと弟たちは、目標のお金を稼ぐことができ、家族はカンボジアへと飛びたちました。最初の一週間はシエムリアップの古代アンコールワット寺院を探検し、新鮮なパイナップルやパパイアを食べて過ごしました。

それから家族はミニバスに乗って数時間離れた学校に行きました。そこで他のふた家族とともに、教室を作り始めました。

まもなくジャクソンは、いつもとなにか違うことに気づきました。毎朝、みんなで神様の守りを祈り求め、このプロジェクトを成し遂げることができるようお願いくださいと祈りました。昼間もいったん手を止めて、さらなる助けと守りを求め

て祈りました。夜にはいつも、1日守られたことの感謝とその日なしとげられた仕事に対する神への感謝の祈りがささげられました。グループは食前にも毎回祈りました。

これまでの生涯の中で、ジャクソンはこれほど祈ったことはありませんでした。家では朝起きた時や夜寝る時、祈っていませんでしたし、食事のお祈りも時々忘れました。彼はカンボジアでの祈りの生活が好きになりました。

ジャクソンは毎日仕事の後とても疲れ切っていました。昼寝をし、夕食に起きて、またすぐ寝ました。

一週間たち、教室は完成しました。ジャクソンは嬉しくなりました。神様は祈りを聞いてくださったのです。きちんと期限内に仕事が終わる、けが人も出ませんでした。

「仕事を終えた時、すごく大きなことを成し遂げた気がしたよ」とジャクソンは言いました。

ジャクソンは今14歳で、オーストラリアのアボンデール校の中学2年生です。でも何かが前と違います。朝起きると、神様に新しい一日を感謝し、お守りくださいと祈ります。学校では勉強がよくわかるようお助けください、とお祈りします。夜眠る時には、よい一日を感謝し、よく休めるよう祈ります。彼は毎回の食前にも祈ります。

ジャクソンはカンボジアの旅行を通して、祈りの大切さを教えられたと言います。

「ぼくは前よりももっと祈るようになったよ。神様はぼくの祈りにこたえて下さるんだ。数学のテストの前に祈ったら、結構よくできた!」とジャクソンはいいました。

〈お話のポイント〉

- ・地図を見て、オーストラリアのシドニーに近いジャクソンの家を見つけてみましょう。カンボジアのプノンペンまでの飛行機ルートを確認してみましょう。

- ・子どもたちに、伝道旅行あるいはその他の旅行に行ったことがあるか聞いてみましょう。彼らは神様について何を学んだでしょうか？

次のリンクでジャクソンのビデオを見てみましょう。bit.ly/Jaxon-Stacey

次のリンクでこのお話の写真を調べてみましょう。bit.ly/fb-mq

宣教メモ

- ・オーストラリアはコアラ、カンガルー、エミュー、ワライカワセミ、そしてカモノハシを含む、様々なユニークな動物の住み家です。

4. 教会をつくった子ども ソロモン諸島



サマニ・ヨセフ（ジョー） 13歳

ソロモン諸島に住む 10 歳のジョーは、家で友達と映画を見たり、テレビゲームで遊んでいましたが、幸せではありませんでした。

南太平洋の国の首都ホニアラに住むジョーの家族と人々の生活はひどいものでした。人々は違法薬物を売ったり、こどもたちは物を盗んで、警察に捕まったりしていました。

ジョーの家は、毎晩近所の男の子たちのたまり場となっていました。ジョーはその中の一人の子が他の子たちと違うことに気が付きました。その子は毎週安息日にパسفアインダークラブに参加していたのです。ジョーは彼と一緒にセブンスデー・アドベンチスト教会に行ってみることにしました。間もなくジョーはパسفアインダークラブに参加するようになり、安息日ごとに教会に通うようになりました。

しばらくしてオーストラリアで南太平洋支部のパسفアインダーキャンプリーがひらかれることになり、参加したがっているジョーのためにお母さんが一生懸命働いて飛行機代をためました。

キャンプリーは最高でした。

家にもどったジョーは、夜集まってきた男の子たちにキャンプリーの話をして聞かせました。男の子たちは夢中になって聞き入り、明日ももっと話を聞かせてほしいと言いました。

そこでジョーは思いました。「みんなパسفアインダーの話が好きだ。イエス様のことも話してみたらどうだろう？」彼はパسفアインダーの話とともに、聖書の話もするようにしました。

話は口コミで伝わっていき、まもなく 30～40 人の子どもたちがジョーの家に毎晩集まるようになっていました。家は裕福ではありませんでしたが、お母さんは子どもたちのためにお話の後の食事を用意するようになりました。どうにか食事はいつもみんなに足りる分がありました。

自分たちもパسفアインダーに入りたいと言う子たちが出始め、次の安息日に 4 人の男の子たちがジョーと教会に行きました。その翌週には、もっと多くの子たちが行きました。

パسفアインダーのリーダーは、どうしてこんなに男の子たちがやってくるようになったか不思議でした。

「ジョー、どうしてきみの近所の子たちがこんなにたくさん来ているの？ 君は何をしたの？」

「ぼくは何もしていません」と、ジョーは答えました。「僕はただオーストラリアのキャンプリーの話をし、みんなで夜の集まりをもっています。それだけです」

リーダーはジョーの家をたずねて、実際に夜の集まりを見てみたいと言いました。

リーダーは、その光景を見て大変おどろき、あとからお母さんにこう言いました。「ここで、教会の集会ができますよ」

彼はジョーの家に未完成で使われていないリビングルームがあるのを見て、ここで安息日の礼拝

をもてないかたずねたところ、お母さんは賛成してくれました。

次の安息日、数十人の近所の子どもたちがジョーの家の教会へとやってきました。パスファインダーのすべてのリーダーたちとその家族も食べ物を持ってやってきました。

そして、ジョーにとってとても嬉しいことが起こりました。お母さんがバプテスマを受けたのです。その後、20歳のいとこ、そしてジョーによってパスファインダーに導かれた3人の近所の男の子たちが、バプテスマを受けました。

現在、ジョーのリビングルームは、安息日ごとに70名ほどの人々で埋まっており、教会を建てる計画が進められています。

現在、ジョーは13歳です。背が低く、外見もスピーチも立派ではありません。でも神様が彼を力強く用いておられることを疑う人はいません。

「ぼくは子どもかもしれないけれど、主の手にあつて教会をつくれるんだ」とジョーは言いました。

〈お話のヒント〉

- ・地図でソロモン諸島をさがしましょう。ジョーが住んでいるソロモン諸島の首都、ホニアラをさし示してください。

- ・ジョーがどのように教会をつくったか、また自分たちもそれと同じようにできるか、子どもたちに聞いてみましょう。ジョーはパスファインダーと聖書のお話をし、子どもたちをパスファインダーに招きました。彼の家族は子どもたちを家に招いて食事を出し、親切にもてなしました。

- ・次のリンクでジョーのビデオを見てみましょう。

bit.ly/Joe-Samani

- ・次のリンクでこのお話の写真を見てみましょう。

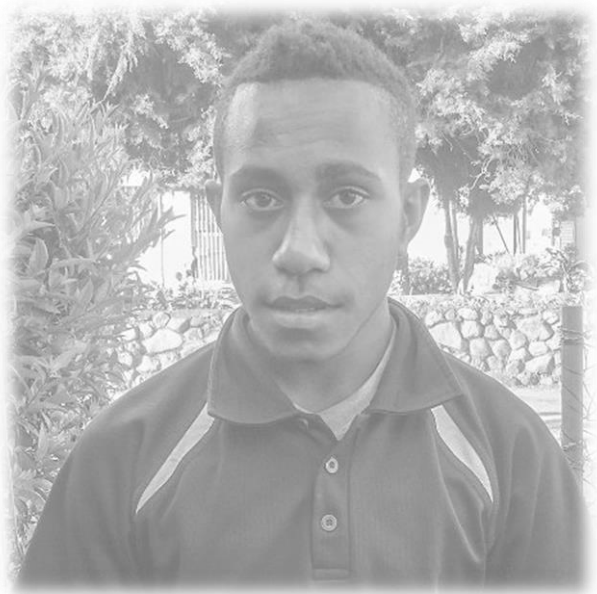
bit.ly/fb-mq

宣教メモ

- ホラ貝は、ソロモン諸島を含む太平洋地域で広く使われている楽器です。それは、人々を招集したり大切なイベントの始まりを告げる、トランペットの伝統的な形として使われています。吹き口は貝の端を取り除くか、横に穴を開けて作ります。

5. 教会にお客さんとして招く

パプアニューギニア



セツ・アンドリュー 14歳

先生は子ども安息日学校のクラスで大切な発表をしました。ここはパプアニューギニア、ワンクンにある教会です。

「来週はビジターズデーです。みなさんお客様を一人ずつ誘ってきてくださいね」

4歳のセツ・アンドリューはこの言葉を注意深く聞いていました。そして、「だれを誘ってこようかな～」と思いました。

教会からの帰り道、彼は歩きながらギニさんというお父さんのお友達を思い出しました。お父さんとギニさんは、同じ学校で先生をしていました。そこで、アンドリューは「よし、ギニさんを誘ってみよう」と心に決めました。

日曜日の早朝、アンドリューはギニさんの家の戸をたたくと、ギニさんが出てきました。

「やあ、アンドリュー君、朝はやくにどうしたの？」

「安息日学校の先生が次の安息日にお客様を連れてくるようにおっしゃったので、おじさんをばくのお客さんとして来てもらえるように誘いにきたの」と、アンドリューは言いました。

日曜日に教会に行っていたギニさんは、一瞬考えてからこう言いました。「アンドリュー君、考えておくよ」

でも、アンドリューのがっかりした顔を見ると、すぐに「わかった。安息日きみと一緒にいこう！」と言ってくれました。

アンドリューは家に帰り、両親にこのことを話しました。お母さんは、ギニさんと奥さんを安息日の昼食にお誘いしようと大はりきりでした。

その週、毎朝の家庭礼拝で、アンドリューはギニさんと奥さんのために祈りました。

安息日がやってくると、アンドリューは一番に起きて教会の服に着替えました。ギニさんへのプレゼントに、お花をつんでギニさんの家へと急ぎました。お花を背中の後ろにかくし、ドアを叩いて「ギニさん！」と呼びました。

ドアの開く音がして誰かが出てきました。それはギニさんではなく奥さんでした。

「アンドリュー君、どうしたの？」と奥さんが言いました。

「ギニさんを迎えに来たの。今日の安息日学校クラスに一緒に行こうって約束したの」

奥さんは驚いて言いました。「それは聞いていなかったわ。おじさんは昨日、自分の村に帰るために出かけたのよ」

アンドリューは悲しくなりましたが、その時あることを思いついたのです。「ギニさんがいないなら、かわりにおばさんが来てくれる？」

今度は奥さんの方が驚きました。でも彼女はギニさんの約束を守りたいと思いました。

「ちょっと待ってね。準備してあなたの特別なお客さんとして一緒に行きますからね」

奥さんが出てきた時、アンドリューは彼女にお花をあげ、彼女の手をとって教会に案内しました。安息日学校が終わると、彼女は礼拝にも参加し、アンドリューの家に来て昼食を食べました。

その後、ギニさんの奥さんは、毎週教会に通うようになり、第七日目土曜日が、本当の安息日であると聖書に書かれていることを知るようになりました。数ヶ月間聖書を学んだ後、彼女はバプテスマを受けました。ギニさんも後から彼女に加わり、同じくバプテスマを受けたのでした。

3年前の13回献金は、パプアニューギニアの
アンドリューのような子ども達のための、そして
ギニさんの奥さんのような人々のために安息日学
校の教室を建てるために使われました。皆様から
の13回献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・地図でパプアニューギニアを見つけましょう。
これは、国で二番目に大きな町ラエから100キ
ロほど西に離れた村、ワンクンで起こったお話で
す。

- ・アンドリューは今、14歳で中学一年生です。
彼は、三人の姉と兄を一人含む五人兄弟の末っ子
です。

- ・アンドリューと彼の家族は今もモロベ州に住ん
でおり、彼の父はラジアンブン・アドベンチスト
小学校の教師(宣教師)として働いています。

- ・子どもたちが来週の安息日学校にだれを連れて
くることができるか、たずねてみましょう。
だれかをお招きするよう、励まして下さい。

宣教メモ

- パプアニューギニアにおけるアドベンチストの初期の働きは困難なものでした。なぜなら、政府がパプアの領土を3つの布教団体、つまりメソジスト、聖公会、ロンドン宣教師会のもとに分けていたため、他の団体の宣教師たちが土地を購入したり、それらの領土内で働くことが難しかったからです。

次のリンクでこのお話の写真を見つけてみましょう。bit.ly/fb-mq

6. ロヒがベッドから起きるように パプアニューギニア



ゴイヤ・ロヒ、16 歳
オペ・ドワイト 14 歳

ナレーター：ドワイトとロヒは、パプアニューギニアのゴロカに住む親友です。学校から帰る時も、遊ぶときも、二人はいつも一緒です。でもドワイトには悲しく思うことがありました。

ドワイト（聴衆に向かって）：ロヒはパスファインダークラブや、毎週土曜日の面白い安息日学校教課のクラスに参加していなかったんだ。

ナレーター：安息日一緒に教会に行けるようにと、その夜ドワイトはロヒのために祈ることにしました。

ドワイト：神様、ロヒが来れるように助けて下さい。ずっと良い友達でいられますように。みんなで一緒に天国に行けますように。

ナレーター：翌日学校の休み時間に、ドワイトは

ロヒと話をしました。

ドワイト（ロヒに向かって）：安息日プログラムにおいでよ。その後ぼくの家でお昼のごちそうを食べよう。

ロヒ（ためらいながら）：わかった、行くよ。

ナレーター：でもロヒは心の中で言いました。

ロヒ（聴衆に向かって頭を振りながら）：ぼくはやっぱり行かないよ。

ナレーター：ロヒは教会にはあまり友達もおらず、行くのが恥ずかしかったのです。その週の安息日、ドワイトは教会でロヒを見つけることはできませんでした。月曜日に学校で会々と、ドワイトはロヒを次の安息日に誘いました。

ドワイト：安息日のプログラムにおいでよ。その後一緒にお昼のごちそうも食べよう。

ロヒ：わかった、行くよ。

ナレーター：ロヒは約束を破って悪かったと思い、再び友達をがっかりさせたくありませんでした。彼は思いました。

ロヒ：たぶん行くよ。もしちゃんと起きれたら。

ナレーター：その週、ドワイトはロヒのために毎晩祈りました。

ドワイト：神様、ロヒが来れるように助けて下さ

い。ずっと良い友達でいられますように、みんなで一緒に天国に行けますように。

ナレーター：安息日の朝、ロヒは8時に起きました。安息日学校は8時半から始まるので、30分しか時間がありません。ロヒは飛び起きて着替え、急いで教会に向かいました。でも教会に着くとどうしても中に入る勇気がありませんでした。どうしようかと思いながら外に立っていると、安息日学校の生徒の一人が彼を中に招き入れました。ドワイトはクラスに親友がいるのを見つけると、飛び上がって喜びました。神様が祈りにこたえて下さったのです。ロヒは安息日のクラスを気に入りました。その日はみんなでソーシャルメディアについて話し合っていました。

先生：フェイスブックやインスタをする時間を聖書を読むことに使いましょう。

ナレーター：ロヒは先生の言葉は正しいと思いました。

ロヒ：ソーシャルメディアは私のほとんどの時間をとってしまうけど、その時間にもっと良いことができるはずだ。

ナレーター：安息日学校の後、ドワイトはロヒを誘って、お礼拝の時、自分や家族と一緒に座ろうと言いました。ロヒはお礼拝にはちょっと戸惑いました。なぜならロヒの教会とちがってここではお礼拝の前に子どものお話があり、お礼拝のあとにはパスファインダークラブの活動があったからです。でも彼はそのどちらも、そしてドワイトの家での昼食も楽しみました。次の金曜日の夜がやってきた時、ロヒは目覚まし時計を朝6時にセットしました。普通なら土曜日の朝のために目覚ましはかけないのですが、安息日学校に遅れたくはありませんでした。翌朝アラームが鳴った時、彼はすぐにベッドから飛び出しました。お母さんが驚いてたずねました。

お母さん：どこへ行くの？

ロヒ：教会だよ。

ナレーター：ドワイトが教会に着いた時、ロヒが教会の外で待っていました。ドワイトはロヒがいるのを見て、とても喜びました。一年経った今、ロヒは毎週安息日のためにアラームを朝6時にセットします。彼はパスファインダークラブや、その他の教会活動にも参加しています。彼はその新しい生活を気に入っています。

ロヒ：以前は週末、家にいたけれど、今は教会に行くととても忙しい。楽しいよ！

ナレーター：ドワイトは今もロヒのために毎晩祈っています。

ドワイト：ロヒがバプテスマを受けますように。神様はぼくの願いを聞いてロヒが教会に来るようにして下さいから、きっとこの祈りもかなえて下さるよ。

ナレーター：3年前の13回献金の一部は、ロヒのような子どもたちがイエスさまについて学べるよう、安息日学校の教室を建てるため、パプアニューギニアをはじめ、南太平洋支部の国々に送られました。

今回の13回献金は、その南太平洋支部における健康キャンペーンを支えるために送られます。これはフィジー、バヌアツ、ソロモン諸島、サモア、アメリカ領サモア、キリバス、そしてトンガの国々において健康事業を通じて足指の切断を予防するための「1万人のつま先を救え」キャンペーンです。またこの献金は、トンガでのホープテレビとラジオスタジオの建設、オーストラリアでの子ども向けのダニエルのアニメシリーズ作成にも使われます。皆様からの惜しみない13回献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・この劇にはナレーター、二人の男の子、先生、一人のクラスメートの役割を演じる五人の子どもが必要です。子どもたちはセリフを覚える必要はありませんが、自分の言葉でも言えるくらいこのお話をよく知っていなければなりません。ナレーターの言葉にしたがって、各シーンを演じることが出来ます。
- ・ロヒの名前はロウヒーと発音します。
- ・ナレーターがこの話を紹介するときにスクリーンでパプアニューギニアのゴロカを見せて下さい。

次のリンクでドワイトとロヒのビデオを見ましょう。bit.ly/Rohi-Goiye
また、次のリンクからこのお話の写真を子どもたちに見せましょう。bit.ly/fb-mq

・来週の安息日学校に友達を招き、ドワイトの模範にしたがおう、と聴衆を励ましましょう。ドワイトは次のように言いました。「ロヒが安息日学校クラスやパスファインダー出席の機会を逃してしまっていたので僕は彼を招くことに決めたんだ。ぼくは、安息日学校での話し合いに彼にも加わってほしかったんだ。」

〈13 回安息日プログラム〉

13 回安息日の前に：

- ・保護者へお知らせを送り、9 月 28 日の 13 回安息日プログラムを覚え、子どもたちが 13 回献金を持っていくよう励ましていただくことができるようにする。
- ・私達の伝道地献金は、神様の言葉を世界中に伝えるための贈り物であること、そして 13 回安息日献金の 4 分の 1 が南太平洋支部における 4 つの事業に直接用いられることをすべての人と確認する。それらの事業は、『聖書研究ガイド』の最後のページと裏表紙に書かれています。

〈来期の 13 回安息日プロジェクト〉

来期の 13 回献金は東中央アフリカ支部に送られます。

- コンゴ民主共和国のゴマ・アドベンチスト大学において幾つかの教室をつくる。
- コンゴ民主共和国のフィリップ・レモン・アドベンチスト大学において 3 つの講堂を建てる。
- コンゴ民主共和国のキンシャサ・アドベンチスト・クリニックにおいて健康事業を拡大する。
- 南スーダンのワウに本部事務所をつくる。
- 南スーダンにジュバ・アドベンチスト中等学校を建てる。
- ケニアにキスム・アドベンチスト病院を建てる。
- エチオピアに子ども安息日学校の教室を 4 つ建てる。